

令和元年度第1回光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和2年1月30日（木）午後1時30分～午後2時30分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育長 能美 龍文

〃 教育委員 河村 博明

〃 教育委員 寺崎 益朗

〃 教育委員 中西 かおり

〃 教育委員 平岡 いづみ

(2) 説明員

光市立島田小学校 内富 幸 教諭

光市教育委員会 加藤剛学校教育課指導主事

A L T（外国語指導助手）三宅アリソン先生

(3) 関係者

中村教育部長、升教育総務課長、河本学校教育課長、塩田学校教育課主幹、原田文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、穠山図書館長、清水学校給食センター所長、影土井教育総務課経理係長、村上教育開発研究所主任研究員、永光教育企画担当（学校教育課）

4 聴講者

3名

5 傍聴者

3名

6 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

ア 光市が進める英語教育「イングリッシュプラン光」の実践について

イ ALT（外国語指導助手）による模擬授業

ウ その他

閉 会

7 議事録（要旨）

開 会

(1) 市長あいさつ

総合教育会議では、これまで教育委員の皆様とともに、本市におけるさまざまな取り組みや課題について協議を重ねてきた。本日の会議では、令和2年度より新学習指導要領に基づく新たな教育課程が小学校から順次スタートする中、特に英語教育については、本市の教育において重要な学びの一つと考えている。子どもたちが自ら異文化に触れるとともに、グローバルな視点から物事をとらえることは非常に重要である。そうした本市が進める英語教育について、委員の皆様とともに意見交換をしていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

先日、児童生徒1人に1台のパソコンを整備しようとする「G I G Aスクール構想」について文部科学省から示されたが、現在、こうした国の主導により、大きな教育改革が進められようとしている。また、本年度は全ての小・中学校の普通教室にエアコンを整備するなど、教育環境の整備を進めてきたが、英語教育についても、新学習指導要領の実施に伴い大きく変わろうとしている。

しかしながら、こうした変革の時代に特に配慮すべきことは、教員の多忙化への取り組みである。さまざまな取り組みを積極的に進めることは重要であるが、教員の負担軽減についても、幅広い視点から考えていきたい。

本日は、教育委員の皆様をはじめALTの先生方にも、率直なご意見とご提言をよろしくお願ひしたい。

(2) 議 事

ア 光市が進める英語教育「イングリッシュプラン光」の実践について

(説明者)

資料、パワーポイントを用いて、加藤剛学校教育課指導主事より説明。(30分程度)

イ ALT (外国語指導助手) による模擬授業

(説明者)

外国語活動で用いる教材や資料等を用いて、内富幸教諭(島田小学校)及び三宅アリソン先生(ALT:外国語指導助手)による模擬授業。(15分程度)

【質疑・意見等】

(構成員)

模擬授業を受け、英語を扱うことに非常に緊張したが、アリソン先生から優しく、笑顔で話しかけていただいたことで緊張がほぐれた。今の子どもたちのように、早い時期からこうしたALTの先生の授業を受けることができているならば、英語にもっと親しみを持ち、好きになれたのではないかと思う。

(構成員)

とても楽しい模擬授業であった。これなら子どもたちも楽しく、笑顔で英語に触れ合えると感じた。なんとなく聞き取ることはできても、うまく話すことができないことが多い。私たちの世代も小学校時代からネイティブの英語を学ぶ機会があれば、英語への親しみももう少し変わっていたと思う。こうした取組みを小学校の低学年から進めていくことは、非常に大切であると感じた。

(構成員)

とても楽しく模擬授業に参加させていただいた。アリソン先生に英語で話しかけられたときは緊張で受け答えがうまくできなかったが、小学校の低学年からこうした経験ができれば、子どもたちの英語に対する不安や緊張が解消され、日本語と同じく英語でも次第にコミュニケーションが取れていくものと感じた。

(構成員)

初めは恥ずかしさから、うまく受け答えができなかったが、アリソン先生の優しい問いかけに次第に緊張もほぐれていった。過去に1年程度、英語を学んでいた時期があったが、英語に触れる機会から離れてしまうと、ほとんど忘れてしまっていることに改めて気付かされた。常に英語に触れ続けることで不安もなくなり、ヒアリング、リスニング力も身に付いてくるものと感じた。英語に慣れ親しむ機会が身近にある今の子どもたちは、非常に恵まれていると思う。

(構成員)

私たちが子どもの頃の英語の授業は、教科書を読み、訳して、書くことが主な学習内容であったと思うが、現在は、小学校からネイティブの英語に直接触れ、会話をすることで、発音をはじめ、言語としての英語を学んでいると思う。今の子どもたちの学習環境は、英語に対する関心をより高めていると思う。

ALTの先生による外国語活動の様子を見ていると、英語によるコミュニケーション能力の素地は、こうした小学校の低学年から英語に慣れ親しむことにより培われていくものと改めて感じた。これからのグローバルな社会を生きていく子どもたちにとって必要な学びであると考えている。

(構成員)

昔の英語の授業は日本人の先生だけで、ネイティブの英語の発音を聞く機会がなかったが、こうして英語が必要な時代になってきた中、週に一度はネイティブの先生による英語の学習を続けたことにより、英語を聞くための耳が鍛えられたという話を聞いた。また、子どもたちが英語を聞くとき、言葉を単語ではなくチャンク (chunk : 塊)、一つの文章を“まとまり”としてとらえるためには、低年齢からネイティブの英語に慣れ、親しむことが大切と言われた。英語をコミュニケーションツールの一つとしてとらえるのであれば、低年齢から英語を耳で学び続けることが非常に重要になると考えている。

ここで、ALTの先生には、日本語を学ぼうと気をつけていること、また、学校現場において、英語教育を進めるうえでのご苦労をお伺いしたい。

(説明員：アリソン先生)

日本語は、同じ言葉でも発音によって意味が異なってくるので、発音には特に気を付けている。先ほどチャンク (chunk : 塊) についてのお話があったが、日本語は英語と違い言葉間にスペースがなく、句読点によって文章が句切られているため、どこまでが細かな文章のまとまりかの判断が非常に難しい。言葉全体を暗記しながら学んでいった記憶がある。

(説明員：内富教諭)

学校現場での一番の負担は、授業を行うまでの教材づくりに時間と労力を要することである。そうした課題を学校全体で解決しようと現在取り組んでいる。

(説明員：加藤指導主事)

教育委員会においては、教材づくりなどに関する教員の負担軽減を図るため、一般的に使う教材については、各学校が共有して使えるよう、イントラネット上に保管している。また、そうした共有ができる教材を増やしていくことで、教員の多忙化や負担の軽減につなげていきたいと考えている。

(構成員)

光市では、ALTの先生が各学校で大いに活躍されていて、英語教育の環境はとても整っていると感じている。先生方の負担軽減も重要な課題の一つであり、授業で用いる教材など、学校ごとで共有できるものはしっかりと共有していただきたい。

(構成員)

これからの学校教育では、小中一貫教育とともに、高等学校までのつながりを考えていく必要がある。本市においては、平成27年度からの3年間、文部科学省より英語教育強化地域拠点事業の指定を受け、室積小・中学校及び光高等学校による英語教育の在り方についての研究を進めてきた。こうした実績を活かしていくとともに、成果については、市内の小・中学校で共有していくことが重要であると考えている。

現在、島田中学校区と光丘高等学校による連携教育の取組みが進められているが、そうした小・中・高のつながり、連携といった視点から、今後、さらに何が必要と考えられるか。

(説明員：内富教諭)

小・中学校の連携については、来年度から始まる小中一貫教育に向けた取組みはスムーズに進んでいる。高等学校との連携においても、小・中学生にはない高校生なりの意見を聞くことができ、小・中学校の授業を進めていくうえで大変参考になっている。

(構成員)

中学校の先生は、英語の専門教員として日頃から英語の授業に携わっているが、小学校の先生にとっては新たな教科となることから、小・中学校が連携した情報交換や研修会などを通して英語教育の充実に努めていただきたい。

(構成員)

現在、小学校3年生からALTの先生とともに英語の授業を行っているが、授業がALTの先生任せにならないよう、担当教員の英語力の向上とともに主体的な授業の進め方が必要になってくる。教員もALTの先生をはじめ、子どもたちとともに英語力の向上に努めていく必要があると考えている。

(構成員)

子どもたちには英語を用いて何を伝えたいのか、なぜ伝えたいのか。英語を学ぶ意味をしっかりと理解することで、英語力の向上とともに、英語に対する興味・関心にもつながっていくものと思う。

(構成員)

英語の学習は学校での授業だけでなく、外国の方との何気ない会話など、普段の生活の中で慣れ親しむことで理解がより深まるものと考えている。以前にホームステイの受け入れをしたことがあるが、その際の経験が英語への興味や関心につながったように思う。今後とも多くの家庭において、そうした機会が増えてほしいと思う。

イ その他

その他の事項等なし

午後2時30分終了